

發送
番號

第 五 四 號

大正 年 月 日 判決
大正 十 年 八 月 三 日 披露

淨寫校 合

大正十一年七月廿一日

校長



銘件

外國人講師囑託、義同申

支那人 關 益 良

右者稟請、上七月廿四日付シ以テ
本校講師トシテ支那語、授業ヲ囑

議案野紙

小樽高等商業學校

託シ報酬一ヶ月金百五十圓給與致矣
同此段及同申也

平 月 日

校 長

文部大臣宛

發送 番號	第	號	大正	年	月	日	判決
			大正	八年	八月	一日	日
							淨寫校
							合

大正八年七月二十四日

校長



銘件 關益良談師會記解令ノ件

案示

議案野紙

小樽高等商業學校

關益良

談師トシテ支那語ノ教授ヲ會記ニ

一箇月ニ當テ金百五拾圓交自

大正八年七月二十四日

姓名

發送 番號	第	號	大正	年	月	日	日判決
			大正	年	月	日	日撥濟
淨寫校							合

大正十一年七月一日

校長



銘件 大阪外國語學校長、回答之件

案

去五月八日付、庶務第八二号ヲ以テ本校講師
師 岡恩福ヲ来八月一日ヨリ本校講師!

議案野紙

小樽高等商業學校

以揮用方、岡ニ以照會有之ハ、本校後
任者モ不白着格、豫定トお願ヒ有同人
以採用、義差支子之存、以校之由也
言存也

、年 月 日

校長

完

發送
番號

第

號

大正 年 月 日
大正 年 七月 三日 日 報 務

淨寫校

合

大正十一年六月三十日



校長



銘件

吳善長所託之付設部場之通
知之件

原

おとどけの件は由りおとどけの陳の閣下長善

議案野紙

小樽高等商業學校

付設部、月能く、通設との下、新設の
手続、就て、同人講評所託之付設部、上申
中、おとどけの要、本月十日付許可指令未
成、い、付七月末より、通設との下、
おとどけの要、おとどけの要、おとどけの要

おとどけ

年月日

校長

宛

履歷書

六

北京旗籍現改入順天府大興縣民籍關益良
年四十四歲

自前清光緒二十八年隨同前陝甘總督升允公在
西安充當書記至宣統三年

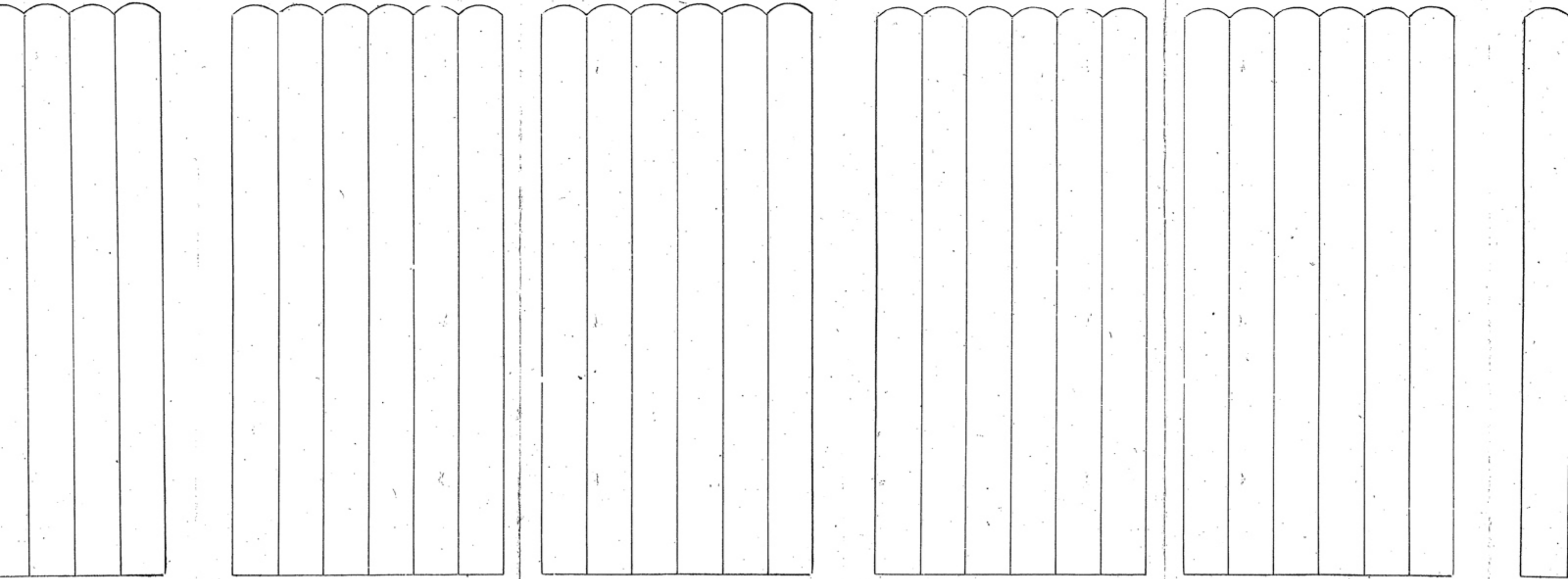
自民國元年隨升公至庫倫居年餘
自民國三年隨同至日本東京居三年

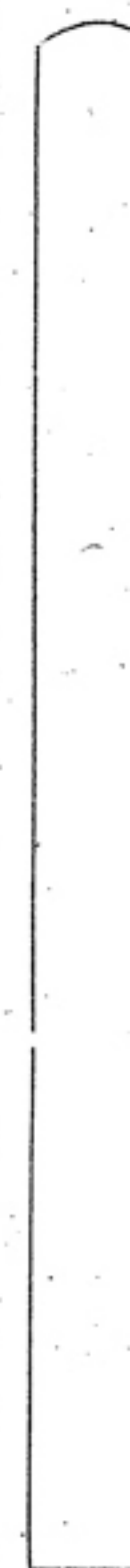
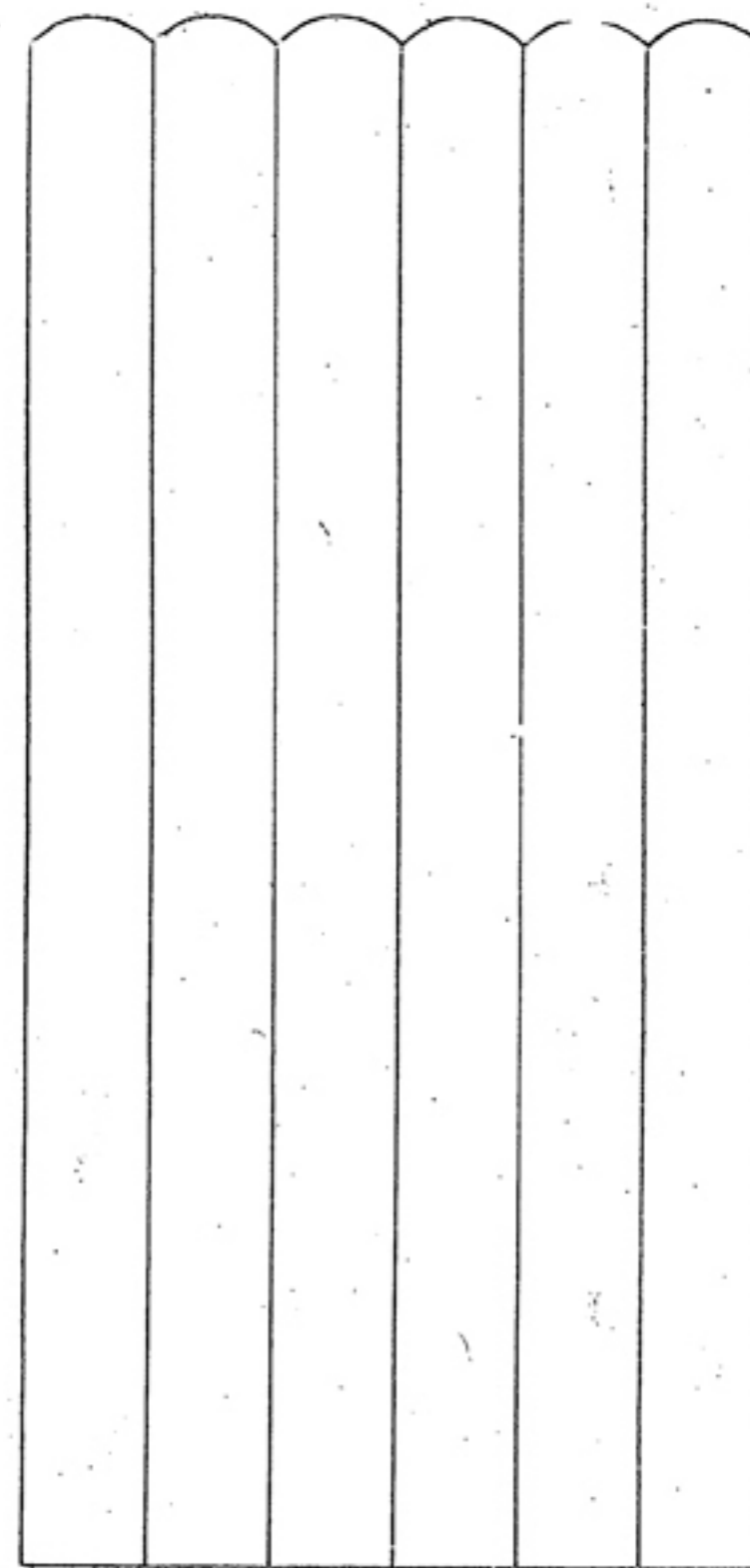
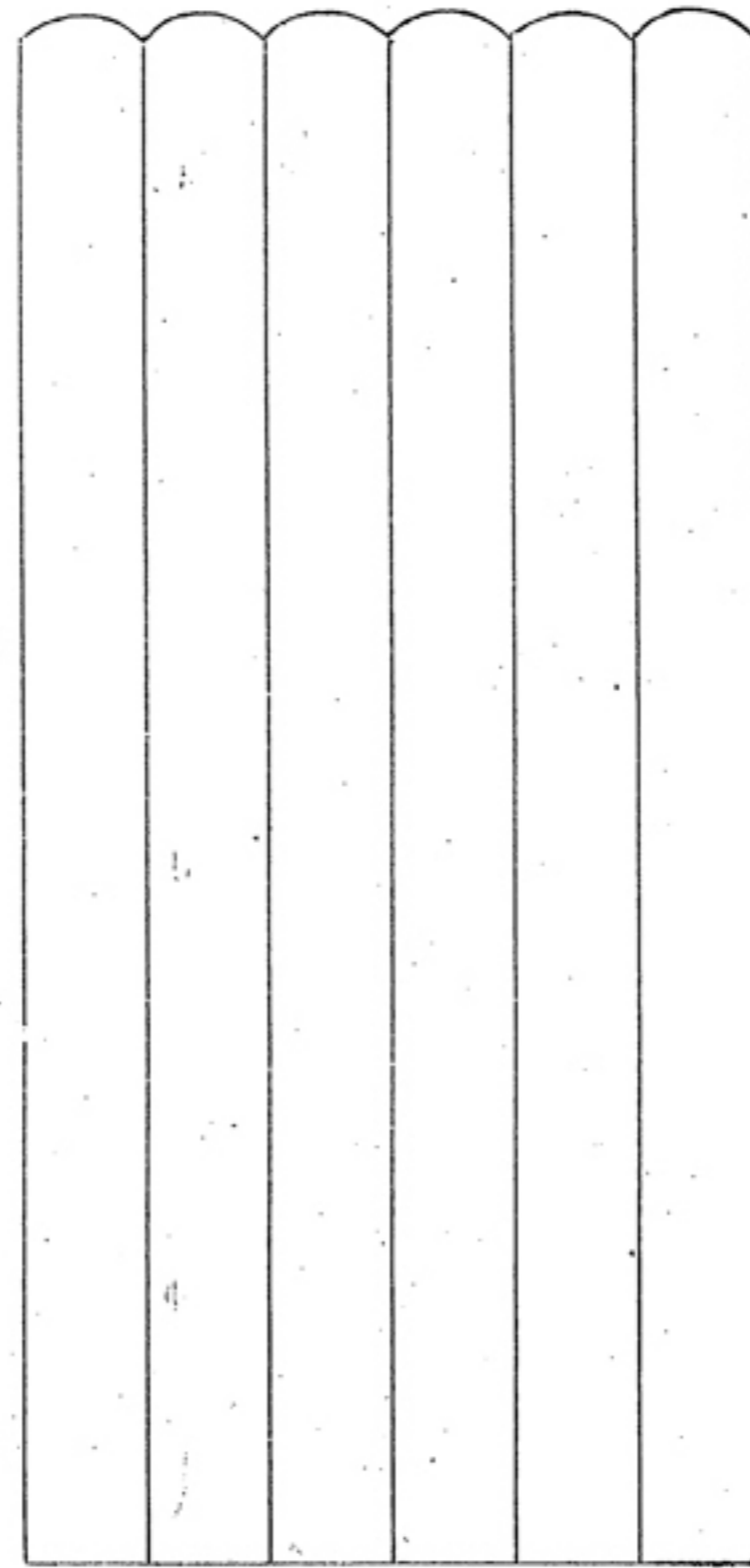
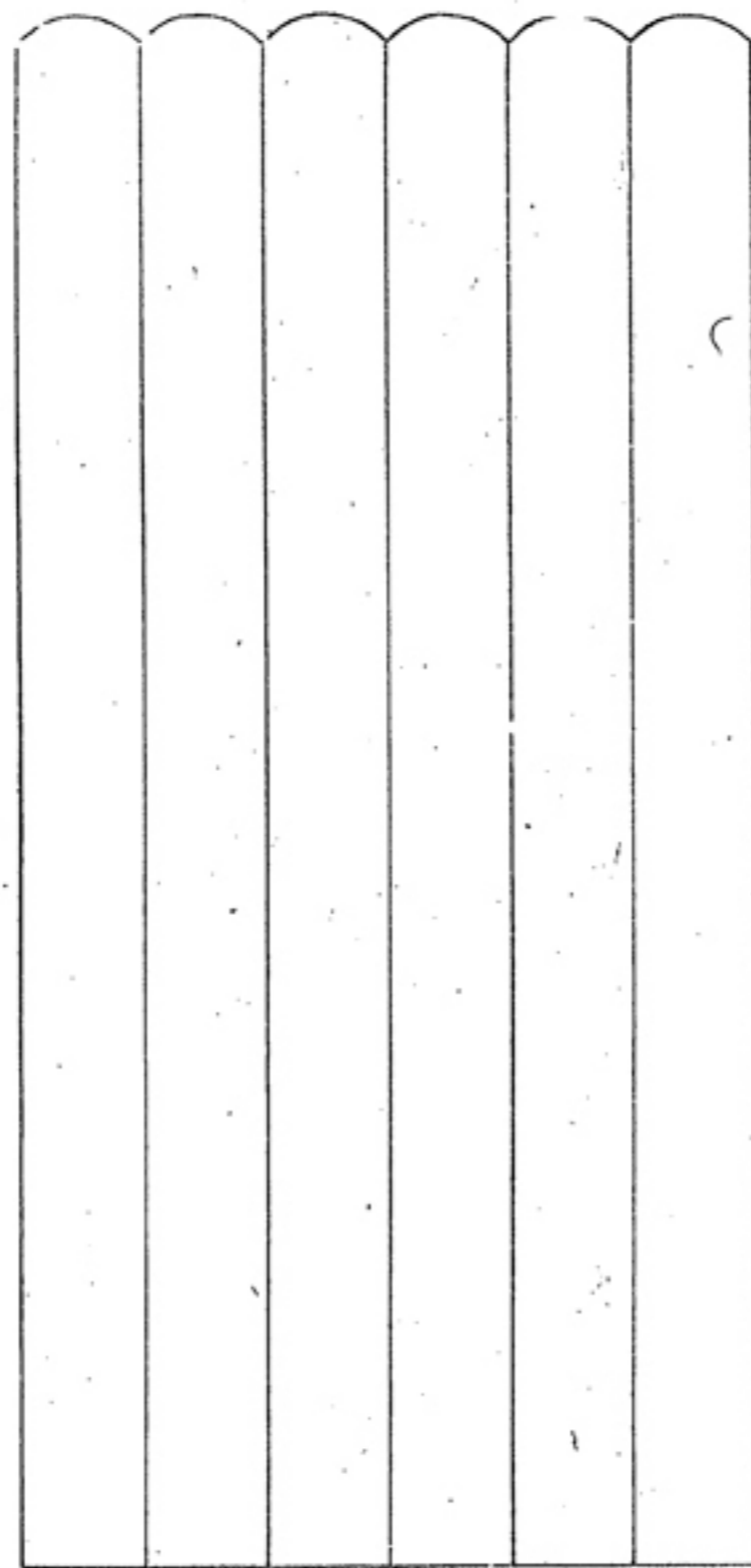
自民國六年一同回國至今同居於青島若
葉町四番地李寓在東京及青島曾經
歷練教授華語約四年

中華民國十一年三月 日

具履歷者關益良







文 部 省

小商秘二八

小樽高等商業學校長

本年六月二十二日付秘第五四號申請
支那人關益良ニ支那語ノ講師囑
託ノ件許可ス

大正十一年六月二十八日

文部大臣 錄田 榮

田 榮

發送 番號	第	號	大正	年	月	日	判決
			大正	八年	八月	八日	日扱
							淨寫校
							合

大正八年六月二十二日

加印

校長

銘件 關益良師會記万由 請件

中東

議案對紙

小樽高等商業學校

師會記万由 請

關益良

本校現在師會記万由恩福承年八月
 一日より大隈外に語多校に懇請、懇請
 成立ころに自其故任トシテ前記、名師
 支那語(毎週約三回)進、後系ラ會記万由
 給附書月全百五拾圓贈給、記万由
 許、の事、或云、承、人、履歴、言、多、協、及
 申、請、件、也

(九、四、田中箱)

傳給入陳叔政中及自是年未結張古良日人
有以心印於張書公事亦日少張書公事
其結之年亦公事在朝中

年 月 日

校長

文部大臣花

小樽高等商業學校



関益良北京人號子謙

履歷書

閔益良 旗籍 年四十八歲 北京人 自
光緒二十六年 隨前清陝甘總督（即升老氏）充書記生

民國元年 同往庫倫

民國三年 同來日本 避亂三年

民國六年 回國 現居青島

在日本及青島時 曾練習教授華語三年

具履歷者 閔益良



上海通小博
等高等業學校

伴房次郎殿

印

X

大正
十
六
月
廿
六
日

東京市外戸塚町字諏訪百八十三番地

服部宇之吉

電話番町五一六〇番

光孝太子不圖恩福氏轉任

法定妻

初後任國益氏

事有親族の方

原中他日

大御家

白字

のま

育

猪野守之吉

伴房次江殿